

## 第3回北九州市まち・ひと・しごと創生推進協議会 議事概要

日 時 平成27年12月21日(月) 13時00分～15時00分

場 所 ホテルクラウンパレス小倉 3階 ダイヤモンド

### 出席者(構成団体)

利島 康司	(北九州商工会議所 会頭)
深町 宏子	(北九州商工会議所女性会 会長)
小森 敏弘	((一社)北九州青年会議所 理事長)
高宮 俊諦	(福岡経済同友会北九州地域委員会 委員長)
自見 榮祐	((一社)北九州中小企業団体連合会 会長)
西村 韶道	((公財)北九州活性化協議会 会長)
國武 豊喜	((公財)北九州産業学術推進機構 理事長)
近藤 倫明	(公立大学法人北九州市立大学 学長)
松永 守央	(国立大学法人九州工業大学 学長)
福原 公子	(九州女子短期大学 学長)
家守 良明	(福岡県企画・地域振興部 部長)
重越 謙二	((一社)北九州銀行協会 会長(福岡銀行副頭取))
(代理出席)	
嶋津 祐一	((株)日本政策投資銀行 九州支店長)
福島 昭一	(連合福岡北九州地域協議会 議長)
上田 早苗	(NHK北九州放送局 局長)
岸本 卓也	((株)毎日新聞社 取締役西部本社代表)
戸町 武弘	(北九州市議会 議長)
永井 博文	(北九州市自治会総連合会 会長)
松村佐和子	(北九州市女性団体連絡会議 会長)
上田真奈美	(北九州市PTA協議会 副会長・母親代表) (敬称略)

### 1 開会

―市長挨拶―

### 2 議事

- (1)北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について  
―「資料3-1」、「資料3-2」、「資料3-3」、「資料3-4」に基づいて事務局より説明―
- (2)推進協議会行動宣言(案)について  
―「資料4」に基づいて事務局より説明―
- (3)総合戦略の進捗管理(案)について  
―「資料5」に基づいて事務局より説明―
- (4)定住・移住推進部会の設置(北九州市版CCRC)について  
―「資料6-1」、「資料6-2」に基づいて事務局より説明―
- (5)国家戦略特区の指定について  
―「資料7」に基づいて事務局より説明―

## (2) 討議

### 利島構成員

- 特区の指定を受けたいというところが多くある中で、政府からうまく理解をいただけたのはこれまでの活動が産官学でうまくできている。これからは是非地方創生を成功させるためにこの会合をしっかりと活用すべき。
- 進捗管理について、うまくいかないところの理由、原因を明らかにしてこの会合で一致団結して解決していけばよい。
- 学生の生の声をしっかりと聞いた上で若者の地元就職促進を考えていかなければならない。また、学校の先生や教授も地元に向けてもらうような施策が必要だ。

### 深町構成員

- 北九州マラソンをはじめ大きなイベントを実施する際は、商店街に声かけをするなど地元から街を盛り上げていく必要がある。
- 北九州市をもっと宣伝・PRすることで、まちの活性化につながると思うのでこの部分はしっかりと頑張っていたきたい。
- 60歳以上の女性に対して、いかにして消費喚起を促すかが大切。

### 小森構成員

- 今回提示していただいている行動宣言を市民に周知し、北九州市の方向性を市民に知ってもらうことで一つの方向に向かっていければよい。
- 小学校、中学校などに対しても、北九州市の方向性、未来を示して今後の街の姿を伝えていければよい。
- 「ゆめみらいワーク」は多くの学生が参加し、非常に良い取り組みだった。
- 進捗管理について、年1回の会議ではうまくいっているものは問題ないが、そうでないものについては修正が必要となりそれが1年となれば少し期間が空くので、途中で会合、報告などがあればよい。

### 高宮構成員

- 総合戦略で、企業としての責任をいかに果たすのかということが具体的に記載されているので、再度しっかりと認識したい。
- 特区も、自治体の提言の仕方によって、幅が広がり、逆に限られたものとなることから様々なアイデアをどう活かすかが課題だ。
- ロボット特区については、税制、設備投資、融資施策など様々なものが考えられるので、是非具体的に提案をしていきたい。

#### 自見構成員

- 総合戦略について、会議を重ねるうちに施策が充実しており、市民とあらゆることを一緒に考えたという意味では非常にいいが、いざ施策を実施するには大変。
- 広域連携はこれからの大きなキーワードである。これまでの自治体の枠を超えた発想は、全体の行政コスト削減なども含めて非常に大切。
- 企業に熟練した人がいなくなっているので人材育成が重要。現場で経験した経験値が必要。

#### 西村構成員

- インターンシップは、学生にとって有望な企業を発見する点で非常に良いが、企業側の受け入れ体制などがしっかりしていないと逆効果になる。また、実施する上で、学校と企業のしっかりとした連携が必要だ。
- 北九州市ミュージアム構想推進事業はシビックプライドの醸成に向けた非常に重要な取り組みである。また、小学校応援団事業もシビックプライドを基盤で支える大切なものである。これからもしっかりと進めてもらいたい。
- 北九州市には様々なものが市民遺産としてあるが、これを埋没させる、活用しないもったいないので、今後活用できる環境をつくっていききたい。

#### 國武構成員

- これからのロボットは介護も非常に大事であるが、人工知能を備えたロボットがどう中小企業や様々な現場で活かすことができるのかなど生産現場でのロボットの活躍は非常に大きく期待されている。
- ロボットの活用などにより高齢者、女性への労働における負担を軽減することで高齢者がより活躍できる場を作り出せるようになる。
- 最近では、技術系の人材を求めて関東などから九州に進出しようとしている大手企業があるので、そうした企業とタッグを組み北九州で新しいものを開発するチャンス、場を大きくしていきたい。

#### 近藤構成員

- 本学では、今後の中長期計画の中で市との協力体制として、COC+の中核として推進するため地域戦略研究所を新設し、また、環境技術研究所では、ロボット、エネルギー問題などに対して、理系、工学的な研究体制、人事も含めた協力体制を整えるなど構成を変え、2つの研究所を中心に戦略を進めていきたい。
- F A I Sなど学研都市を中心としたロボット、エネルギー、介護など北九州市のものづくり産業の後継者の育成などに対して、組織だけでなく実際の成果に結び付くための取り組みを積極的に進めていきたい。
- 学生の就職の受け皿については、産業界、行政、大学などが一緒にやっていく必要がある。

### 松永構成員

- 環境未来都市、スマートグリッドであれば北九州市と言われているが、北九州でないと見られないものを見つけることが産官学、市民、この会合を含めた課題だ。
- 北九州市は情報発信が弱くて、まち全体の弱さだと思うので、みんなで協力して情報発信していく方法をつくっていくしかない。
- 外国人は天守閣や漫画ミュージアムなど福岡市になくて北九州市にあるものに結構興味をもっている。留学生を使った魅力を発信していただくとともに、求めているものを調査し、ニーズにあったものを準備することが大切。

### 福原構成員

- 行動宣言が良いものとしてできているので、これをいかに共有できるかが大切だ。
- 進捗状況について、もう少しわかりやすくしてはどうか。5年間計画で年1回の進捗状況報告では回数が少ないので、次のアクションを起こすための進捗状況は中間報告が入ったほうがよい。
- 地元就職を進めるためにも、地元の中小企業の就職セミナー、事前説明会を早めに開催していただき地元とつなげていきたい。
- 北九州は全国的にトップレベルの子育てしやすい街で今後も発展していくと思うが、教育環境も女性が定着する上で必須なのでその整備もしっかりしていただきたい。

### 家守構成員

- 総合戦略について、CCRC、ロボットの活用など北九州ならではのものになっており、福岡県の総合戦略と同じ方向で取り組んでいけるものがある。今後、具体的に事業を実施する場合には、県の総合戦略に盛り込まれた取り組みと一緒にすることで相乗効果が生まれる。
- 福岡県でも東京での受け入れ窓口などの情報発信力、様々な相談機能の強化を検討していきたい。東京の転職マーケットで転職希望者のうち5割は勤務地を問わないとのことなので、その部分に働きかけをしていきたい。
- 理工系人材のうちエンジニア関係の人が多く、企業にしてみれば人材確保がしやすい状況にある。福岡から人材を首都圏にもっていくのではなく、こちらに来たらどうかと働きかけをするチャンスの時期だ。

### 吉戒構成員(重越氏 代理出席)

- 空き家対策の推進の一環として、人口減少を踏まえて都市のリノベーションの推進を進めている。市との連携で、市の空き家解体に関する補助金を受給する方には、金融優遇などができるなど利用者にメリットをアピールしニーズに答えていきたい。
- 首都圏などから北九州への大規模な人材還流の一環として、福岡県に人の流れをつくるセミナーを東京で開催し、起業を検討している方を全力で応援することとしている。

#### 嶋津構成員

- 進捗管理について、年1回の結果報告、議論ではペースが遅いので、全員が集まるかどうかは別として、中間的な見直しを是非やっていただきたい。
- KPI達成率、事業進捗度に関して、達成率は数値化されるのでわかりやすいが、事業進捗率は曖昧な部分が出てくると思う。厳しい判断が必要となる部分も出てくると思うが、そういう決断のできる仕組みにしていきたい。
- 今後、様々な事業で公から民間に移っていくので、その民間事業者との連携が発展につながるので、これまで以上に民間情報に敏感になって対応していただきたい。

#### 福島構成員

- 若者の地元就職について、北九州地域では、高校は工業高校、大学は工業系大学が多いがそういった人の受け皿となる企業が少ない。
- 特区を活かし全国に対して高齢者に対するサービス、支援などのモデルをPRしていただきたい。
- 定住・移住について、アクティブシニアを対象としているということで、50歳を超えると賃金水準の話以外にも、自分に合った働き方、魅力のある働き方を求めていく人もいるので、北九州ではこうした働き方ができることをPRしていただきたい。

#### 上田(早)構成員

- 北九州には次なる波が来ていると思うが、それは産官学の方々の地道な取り組みを進めてきた結果、蒔かれた種が芽吹き始めている気がする。
- 発信に関しては、日本の中の北九州というのではなく、世界の中における北九州の視点が重要である。いろいろなよさを一般的、普遍化するのは非常に難しいので、北九州の強みをどのようにアピールするのかの知恵出しはこの会合を通じるなど横断的に行ったほうがよい。
- 進捗管理について、多くの事業が横並びで書かれている。戦略を見直す際に、A事業とB事業が力を合わせていけば相乗効果が見込めるなど、横断的な視点が入るとより有効的にこの戦略が進んでいく。

#### 岸本構成員

- 北九州では来年のエネルギー大臣会合が開催されることから、これまで北九州市が取り組んできた環境のまちを世界に発信できるなどフォローの風が吹いている。また、スタジアムの完成などを契機としたにぎわいの創出も期待できる。
- 毎日新聞では高校選抜野球から花園（高校ラグビー）をはじめ、北九州マラソン、選抜女子駅伝などの全国から注目されるイベントを主催しておりこれからも引き続き頑張っていきたい。

#### 戸町構成員

- 地方創生が成功するためには、やはり今住んでいる方が幸せになる魅力ある都市でなければならない。
- 地元企業について、市と取引している企業が利益を出しておらず厳しい状況にあるので、企業誘致も大切であるが地元企業の育成を真剣に考えなければならない。
- 何かをやる時には小倉に集まるような仕組みを作り、100万都市を実感できる状況があってこそ初めて地方創生の成功といえるのではないかな。

#### 永井構成員

- 総合戦略は立派なものが完成しているので、今後はPDCAを回りながら方向性と実現性を高めていかなければならない。
- CCRCをはじめ、若い人へのUターンも是非東京で周知していただきたい。
- 空き家問題について、早く対策を具体化して、子育てに関するサロンなどと一緒にした空き家の活用を早急に進めてほしい。

#### 松村構成員

- 高齢者のボランティア活動がもう少しできる街にしていきたい。何かあれば積極的に参加させていきたい。
- 北九州市の強いところ、弱いところを徹底的に洗い出して重点的にしていかないと、どれも中途半端になってしまう。

#### 上田(眞)構成員

- 北九州市には自然や地元の食べ物など子どもたちにとって良い環境が整っているいい街なので、こうしたことを外に発信すべき。また、情報発信としてテレビ番組の活用なども1つの手段である。
- 観光客が他のところから来た時に北九州市に長く滞在してもらうためには魅力のあるまちでなければならない。そのためには、地元力もあげて、観光客を受け入れる体制を整えなければならない。
- 最近では小学校の授業で保育所との交流があるが、そうでない若い方は小さな子どもや赤ちゃんとの交流がないので、触ることに対して恐怖心をもっている子がいる。若いころから交流をもつことで、子どもをもつ大切さを感じてもらいたい。

以上